

# 2016授業づくり虎の巻



福島県立富岡養護学校・校内研修のまとめ

## ステップアップする授業づくり

- 一、子どもがどこまで理解しているかを捉える。
- 一、分かりやすさが第一の条件である。
- 一、分かりやすさで前向きになれる。
- 一、分かりやすいから表現できる。
- 一、見通しをもてると、やる気がでる。
- 一、興味関心がモチベーションにつながる。
- 一、発問はひとつずつシンプルにする。
- 一、一問一答が基本と知る。
- 一、子どもに合った有効な手だてを明確にする。
- 一、目標は八割、達成可能なものを設定する。
- 一、丁寧な言葉かけ、丁寧なモデリングをする。
- 一、繰り返しへの取り組みで、少しずつ身につく。
- 一、子どもを見て徐々に支援を少なくしていく。
- 一、課題に取り進む場面を具体的に設定する。
- 一、いろいろな表現方法を柔軟に取り入れる。
- 一、子どもの好きなものを知っていることが大切。
- 一、楽しく自由な雰囲気チャレンジ精神を生む。
- 一、子どもが楽しめるには教師も楽しむ。
- 一、スモールステップで確実にステップアップ。
- 一、四つの観点から変化や成長を具体的に捉える



### 小学部

**考える力**

単元開始当初、何をやるか分からなくて、教師と一緒に取り組んでいた。

変化・成長  
単元終了時には、活動が分かって少し言葉かけで取り組むことができた。

学習の様子

<有効な手だての例>  
実態に合わせて教材を準備し、繰り返し行うようにする。

### 小学部

**やってみる力**

単元開始当初、視線が定まらず、指先が少し動いただけだった。

変化・成長  
単元終了時には、手本を見て、シールを貼ったり、粘土を押し込んだりすることができるようになった。

学習の様子

<有効な手だての例>  
児童の実態に合わせて教材を準備し、繰り返し行うようにする。

### 中学部(※抜粋)

**表現する力**

単元開始当初、声かきさかたり単語のみで答えたりしていた。

変化・成長  
単元終了時には、「私は……です。」と「はっきり」答えることができた。

学習の様子

<有効な手だての例>  
顔をどこまで上げるかを教師の手で示す。顔を上げるタイミングを示す。

### 高等部(※抜粋)木工班

**興味を持つ力**

単元開始当初、感覚遊びをしていることも多かった。

変化・成長  
単元終了時には、工程表などを見て、関心を高めることができた。

学習の様子

<有効な手だての例>  
工程表や道具の名前を掲示するなど視覚的な情報を提示する。

## 授業をチェックしてきちんと改善

- 一、「授業改善チェックシート」を活用する。
- 一、チェックをして改善策を段取ることが大事。
- 一、チェックをして授業改善に活かすことが大事。
- 一、毎日の振り返りが基本と知る。
- 一、TT間の普段の会話が大切。
- 一、子どもの将来の姿をイメージする。
- 一、四つの観点から具体的にチェックする。
- 一、子ども自身の理解と評価をめざす。
- 一、シンプルな教材教具づくりをめざす。
- 一、ねらいが見える教室環境づくりをめざす。



## 「つなげる」体制づくり

- 一、単元と現在の学習や生活のへつながり
- 一、単元と次の学年や学部、卒業後の生活へのつながり
- 一、(タテのつながり)
- 一、子どもたちのことを全員で知ること
- 一、めざす。
- 一、個別の指導計画を授業に生かす。
- 一、毎日の振り返りが基本と知る。
- 一、「つなげるシート」を有効に活用する。
- 一、教員同士が自由に話せる、互いに学び合える職場づくり(OJLの考え)が大事。

